

熊本市教育委員会は、8月27日（水）熊本市教育センターにおきまして、第1回「家庭と学校との連携について考える会」を開催しました。

この会は、家庭と学校の連携のあり方や可能性について、本市の教育に関わる多様な立場の方と意見を交わし、今後のPTAを含めた家庭と学校との連携の活性化につなげるために開催しています。



第1回の内容について



第1回の内容は、各委員から、家庭と学校との連携に関する現状等を伝え合うことで、互いの状況を把握し合うものでした。



PTA会長として心がけていることは、保護者の皆さんに、活動の意味・意義をしっかりと理解してもらうことです。また、活動は子どもたちにとっての“ふるさとづくり”であることに重点を置いています。（PTA関係者・保護者）

PTAにかかわることによって、いろいろなことを身に付けることができました。PTAは“大人の学校”だと思います。PTAを通じて自分を育てていただいた地域へ、自治会等の場で恩返しをしたいと思っています。（PTA関係者・保護者）

コロナ禍や、役員のなり手不足などが主な原因でPTAが解散しました。PTA解散後は「保護者会」として活動しています。他の団体の活動等を参考にしながら持続可能なものにしていきたいです。（保護者会関係者）

PTAがないことで不安に感じることは、地域と学校とのかわりが薄くなるということです。保護者と教職員との間に“かべ”があるように感じます。学校に対して要望等がある時に、どうやってそれを届けるのだろうと思います。（PTAのない学校 保護者）

数年前に本校のPTAの組織がなくなり、その後「保護者会」として、学校が保護者の力を借りたいときに、学校から呼びかけて応援を集めて活動しています。保護者同士がつながり、保護者と学校がつながる場として、「家庭教育セミナー」や「語り場」を開いています。（校長）

PTAの歴史の中では、学校給食制度の始まりや、教育環境整備のためにも大きな役割を果たしたことは周知の事実です。しかし、それらは「困っていたから」なされたものであって、「困っていない」状況で、いやいやながらPTA活動をさせられるのではいけないと思います。明確な目的と広い視野をもって活動することが大事ではないでしょうか。（PTAに加入していない保護者）

PTA会員であろうと非会員であろうと、保護者の方々は、学校にとっては非常に大事な存在です。子どもを教育するのに、教員と保護者とは見えている世界が違って、教員と保護者が補完し合ってよいものになっていきます。そういう意味で、PTAには大きな教育機能があるので、なくなってしまうのは困ります。（校長）

今後、家庭と学校との連携に関するアンケートを実施しますので、保護者・教職員の皆様にはご協力をお願いします。

また、第4回については、教育イベント「くまもとエデュケーションウィーク」で広く公開して開催する予定です。

○第2回：10月8日実施 アンケート内容の検討

○第3回：11月18日予定 アンケート結果から見えるもの

○第4回：1月中旬予定（KEW開催）「これからの家庭と学校との連携について」

○第5回：3月予定 「まとめと提言・今後のアクション」



(URL) <https://kumamoto-ew.jp>